あなたの心に
消えることのない
稲むらの火を・・・

稲むらの火の館

津波防災教育センター
濱口梧陵記念館

津波防災教育センター

来るべき時に備えて…。命とくらしを守るために

1F

最新の技術を駆使した映像や実験装置により、地震・津波の恐ろしさを体感しながら、災害への備えや、自分の身を守る知識を学ぶことができます。
また、津波発生時には周辺住民の一時避難場所となっています。

シアターの座席数は50席、専用の特殊偏光メガネを装着して鑑賞します。

■ 3D津波映像シアター

幅約7.5m、高さ2.5mの大型スクリーンに映し出される迫力ある立体映像と床に仕掛けた振動装置により津波のすさまじい破壊力を疑似体験することができます。

■ 津波シミュレーション

長さ約16mの水槽に津波を発生させ、押し寄せる津波の姿を観察できます。通常の波と津波の違いを比較することもできます。

東海・東南海・南海地震が同時発生した場合に想定される津波の高さをレーザー光により壁に映し、その高さを実感することができます。

■ 防災体験室

津波災害から命を守る、「応急」、「復旧」、「予防」の3つの知恵を体験映像やゲームで楽しみながら学習することができます。

2F

■ 稲むらの火展示室
広川町における津波防災のあゆみを紹介しています。

■ 継承の道
1605年、慶長の大地震津波から現代まで繰り返し襲ってきた津波の歴史の中で、人々が津波防災の精神を継承してきた道のりをたどります。

■ 津波ライブラリー
防災関連書籍や映像が閲覧できます。

■ 旧式の地震計
気象庁で実際に地震観測に使われていたものを展示しています。

■ 動く津波ハザードマップ
津波災害が発生した場合を想定した様々な状況を時間経過とともにシミュレーションすることができます。

■ 3Dハザードマップ
和歌山県各地の予想震度や津波浸水予測、避難場所等をタッチパネルで操作し、詳細に表示することができます。

3F

■ ガイダンスルーム
見学前に、ガイダンス映像を鑑賞の他、各種講演会等に利用。災害時には、一時避難・備蓄施設としての機能を備えています。

■ 企画展示室
各種イベントや企画展示を開催。開館時より、「スマトラ島沖地震・津波災害から学ぶ」を開催中。2004年12月26日に発生し、未曾有の被害をもたらした地震・津波による現地での被災状況の写真や津波の映像を紹介しています。

濱口梧陵記念館

偉大な功績と教訓…。その人柄にふれる

濱口梧陵ゆかりの品々を展示、その偉大な功績や教訓とその生涯を紹介

■ 展示室1,2
梧陵の生い立ちから晩年までをたどり、人生において鍵となる人物との出会いや社会的偉業を紹介しています。

■ 展示室3
梧陵にまつわる貴重な史料を展示しています。

■ 多目的室
梧陵書簡や年譜を展示しています。

■ 展示室4
梧陵史跡マップの展示と関係書籍等が閲覧できます。

■ 土間シアター
昔の台所「おくどさん」が残る土間がシアターになり、梧陵の生涯を上映します。

■ 日本庭園
美しい庭園を眺めながらゆったりとしたひとときをお楽しみ下さい。

「災害に ごりょうの心 助け合い」
（平成19年度稲むらの火大賞標語部門大賞受賞作品）

■ 物産店
当館駐車場横にある観光協会が管理する物産店では、ここでしか販売していない醤油「稲むらの火」や地元で製塩した塩などの特産品を購入することができる他、簡単な食事のできるコーナーもあります。

濱口梧陵（はまぐちごりょう）文政3（1820）年～明治18（1885）年

濱口梧陵は、紀州広村（現在の和歌山県有田郡広川町）で生まれ、12歳の時、現在の千葉県銚子市で醤油製造業を営む本家の養子となり家業を継ぎました。

安政元（1854）年、梧陵が広村に帰郷していた時、大地震が発生し、大津波が紀伊半島一帯を襲いました。この時、梧陵は稲むら（稲束を積み重ねたもの）に火を付けて目印として、逃げ遅れた人を安全な高台に誘導し、多くの村人の命を救いました。

この実話をもとにした「稲むらの火」の話は、昭和12（1937）年から10年間、小学校の教科書に掲載され、これを学んだ多くの人に強い印象と深い感銘を与えました。

また、梧陵は、被災者救済のため、小屋の建設や農機具や漁具の配給を行ったほか、再び起こるであろう津波に備えるため、私財を投じて、高さ約5m、長さ600mの大堤防を築きました。この工事に村人を雇用することにより、広村の復興に大きく貢献しました。

こうして完成した広村堤防は、1946年（昭和21年）に発生した昭和の南海地震の際には、津波による被害を最小限に食い止めました。

また、梧陵は、教育面では、現在の耐久中学校・高等学校の前身となる私塾を開設し、剣道や学業などの指導にあたり、人材育成に尽力したのをはじめ、駅逓頭（後の郵政大臣）や初代和歌山県議会議長などの要職に就き、優れた才能を発揮しました。

その後、梧陵は長年の念願であった欧米諸国への視察途中のニューヨークにて66歳の生涯を閉じました。

稲むらの火が掲載された当時の教科書

■ **安政聞録の津波実況図**

この図は、養源寺に保管されている「安政聞録」に収められており、安政の大津波が広村を襲ったときの状況が描かれています。夕闇が迫る混乱の中、梧陵が危険を冒して稲むらに火を放ち、それを目印に、村人たちが迫りくる津波から高台に逃げている様子がうかがえます。

「先人の 教えを伝える いつまでも」

（平成19年度稲むらの火大賞標語部門優秀賞受賞作品）

梧陵の防災精神を受け継ぐ人々

津浪祭

安政の大津波により犠牲となった人々の霊を慰め、かつ後世のために大堤防を築いてくれた濱口梧陵ら先人の偉業とその徳をしのび、50回忌の明治38（1903）年に堤防へ土盛りを始めたことが、津浪祭の始まりとされ、100年以上も続いています。

稲むらの火祭り

濱口梧陵の遺徳と偉業を学び末永く後世に継承するとともに、地震・津波への防災意識を高めるため、平成16（2003）年より開催。

当日は、参加者が松明（たいまつ）を持ち、広川町役場前の「稲むらの火」広場から津波の際の避難場所となった広八幡神社に向かって歩いていきます。（毎年10月開催）

周辺案内

過去から現代に受け継がれている防災への取り組みや歴史、先人の偉大な功績や史跡にふれる。

※ 写真中央、緑に見える部分が広村堤防

広村堤防
梧陵が私財を投じ、村人を雇用して築いた高さ5m、幅20m、延長600mの大堤防で、安政5（1858）年12月に約4年の歳月をかけて完成。昭和13（1938）年に国の史跡に指定されています。昭和21（1946）年に発生した昭和の南海地震の際は、津波による被害を最小限に食い止めました。

感恩碑
災害から故郷を守り、発展させてきた濱口梧陵ら先人の偉業に感謝するため、昭和8（1933）年12月に建立されました。

稲むらの火広場
広川町役場前にある「稲むらの火」の物語を再現した広場で、稲むらの火祭りの式典が行われます。

耐久社
現在の耐久中学・高校の前身で、江戸末期の嘉永5（1852）年に濱口梧陵、濱口東江・岩崎明岳らによって剣術・漢学を教える稽古場（私塾）として創設されました。

濱口梧陵墓
昭和13（1938）年12月、広村堤防とともに国の史跡に指定されています。

濱口梧陵銅像
昭和42（1967）年1月、耐久中学校の校庭に建立されました。

大地震津なみ心え之記碑

嘉永7(1854)年6月14日、深夜3時頃大きな地震が起こり、翌日の15日までに31、2度揺れ、それから小さな地震が毎日のように続いた。6月25日頃になってようやく地震も静まり、人々の心も落ち着いた。

しかし、11月4日、晴天ではあったが午前10時頃また大きな地震が起こり、およそ1時間ばかり続き、瓦が落ち、柱がねじれる家も多かった。河口には波のうねりが頻繁に押し寄せたが、その日も大きな被害などもなく、夕暮れとなった。

ところが翌日の5日午後4時頃、昨日よりさらに強い地震が起こり、南西の海から海鳴りが3、4度聞こえたかと思うと、見ている間に海面が山のように盛り上がり、「津波」というまもなく、高波が打ち上げ、北川(山田川)南川(広川)原へ大木、大石を巻き上げ、家・蔵・船などを粉々に砕いた。その高波が押し寄せる勢いは「恐ろしい」などという言葉では、とても言い表せないものであった。

この地震の際、被害から逃れようとして浜へ逃げ、或いは船に乗り、また北川や南川筋に逃げた人々は危険な目に遭い、溺れ死ぬ人も少なくなかった。

既に、この大きな地震による津波から150年前の宝永4(1707)年の地震の時にも浜辺へ逃げ、津波にのまれて死んだ人が多数にのぼったと伝え聞くが、そんな話を知る人も少なくなったので、この碑を建て、後世に伝えるものである。

また、昔からの言い伝えによると、井戸の水が減ったり、濁ったりすると津波が起こる前兆であるというが、今回(嘉永7年)の地震の時は、井戸の水は減りも濁りもしなかった。

そうであるとすれば、井戸水の増減などに関わらず、今後万一、地震が起これば、火の用心をして、その上、津波が押し寄せてくるものと考え、絶対に浜辺や川筋に逃げず、この深専寺の門前を通って東へと向かい、天神山の方へ逃げること。

恵空一庵 書（文面は現代語訳）

（注：文面にある日付は旧暦のものです。また、碑に記されているように当時の元号は嘉永でしたが、この地震による被害があまりにも甚大であったことから、その年の途中で元号を安政に改めました。このため、安政の大地震と呼ばれています。）

湯浅の街並み

湯浅は、熊野古道の宿場町として発展してきました。また近世には、醤油醸造業など商工業を中心に発展し、現在も醸造業関連の町家や土蔵などの建物と「通り」と「小路」で面的に広がる特徴的な街並みが残されていることから、平成18（2006）年12月に国の「重要伝統的建造物群保存地区」に選定されています。各家の軒先には当時の古道具や古民具などが展示されています。

大仙堀

醤油の原材料や商品の積み下ろしを行っていた内港で、堀の上に醤油蔵が建ち並んでいます。

深専寺（じんせんじ）大地震津波心得の記碑

寺の山門脇にある、安政3（1857）年に建立された碑文には、安政元（1854）年の大地震津波の概要と、今後地震が起こった時の行動について戒める内容が記されており、現在もその教訓を伝え続けています。（左記に碑文の内容記載）

津波防波堤

湯浅広湾では、津波対策として濟口部に津波高を低減するための津波防波堤の整備が進められています。（写真下部が津波防波堤の完成イメージ）

広八幡神社

欽明天皇の頃の創建と伝えられ、室町時代の本殿・楼門などの建造物や棟札、鎌倉時代の短刀が国の重要文化財に指定されています。梧陵が安政の地震津波の際住民に避難するよう呼びかけた場所であり、現在も、津波災害時の一時避難場所に指定されています。

濟口梧陵碑

梧陵の生涯の功績を称え、没後の明治26（1893年）4月に建碑されました。その碑文は、梧陵と交流の深かった勝海舟の揮毫と撰文によるものです。

養源寺

日蓮宗大黒天を祀る同寺には安政の地震・津波の当時の状況が詳しく記された「安政聞録」が保存されています。

東濟口公園

梧陵の親類にあたる東濟口家が約300年前に整備した日本庭園。四季を通じて様々な木々の変化や草花が鑑賞できます。

施設概要

〒643-0071 和歌山県有田郡広川町広671
TEL:0737-64-1760　FAX:0737-64-1761
http://www.town.hirogawa.wakayama.jp/inamuranohi/

開館時間　午前10時～午後5時（入館時間は午後4時まで）
休 館 日　月曜日・火曜日（祝日の場合は開館）
　　年末年始（12月29日～1月4日）
入 館 料　一 般　　500円
　　高校生　　200円
　　小・中学生　100円
　　（学校の教育活動の場合、小・中学生は半額）
　　※団体でのご来館の際は事前にお申し込み下さい。
アクセス　電車の場合：JRきのくに線「湯浅駅」下車、徒歩約15分
　　車の場合：湯浅御坊道路「広川IC」から、北西へ約10分

平成19年度
「稲むらの火大賞」デザイン部門大賞受賞作品

和歌山県危機管理局総合防災課
〒640-8585 和歌山県和歌山市小松原通一丁目1番地
TEL 073-441-2271
E-mail e0114001@pref.wakayama.lg.jp.

PRINTED WITH SOY INK
このパンフレットは地球環境に優しい大豆油インキを使用しています。